



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190400091		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川越新宿		
所在地	川越市 新宿町6-33-1		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ
所在地	東京都千代田区麴町1-5-4-712
訪問調査日	令和2年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人、その方に合ったケアを心がけています。ご利用者様同士のコミュニケーションを尊重し、楽しく過ごして頂いております。ご利用者の体調や様子に合わせて、一緒に運動したり、作品を作ったりしています。コロナウイルス対策で運営推進会議・オレンジカフェで集まることができなくなりましたが電話やお便りの配送時の文章で今後、どうしていくのかなどの方針を伝えています。健康管理は徹底しており、常に職員やご利用者様の状態を細かく確認し、何かあれば迅速に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月実施されるフロア会議では、職員間で利用者一人ひとりに対する声掛け方法や対応などを話し合い、把握に努めるとともに支援に反映できるよう取り組んでいる。コロナウイルス感染症防止の為、作品の制作、ぬり絵、歌、ハーモニカなどのレクリエーション活動を充実に取り組んでいる。また、食事下膳や後片付け、モップ拭き、洗濯物やおしぼりたたみなどの日常生活での家事のお手伝いを促すことによって、利用者の自立支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	必要な人に必要なサービスの提供という理念に基づいて実践につなげている。	理念掲示いつでも確認できるようにしている。職員会議でも振り返りの機会を持ち、職員一人一人への周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス対策で直接的な交流はないが電話などを積極的に行い、相互で繋がっている。	オレンジカフェの開催やボランティアの登録など地域との関わりに力を入れているが、コロナ禍において現在は中止している。コロナ禍における地域との関わりについて検討をすすめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアやご家族様に介護や介助の仕方や理由等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策の関係で開催できていないが、電話での話し合いや出た意見を参考にサービス向上に生かしている。	定期的に運営推進会議を行い、議事録も作成している。現在はコロナ禍において中止としているが、電話などで家族からの意見を聞く機会を設けるなど把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス対策で施設の状況や今後の対策や方針などをお伝えし、話し合っている。	オレンジカフェを通じて協力関係が築かれていたが、現在は電話などにより事業所の情報を伝えるなどに留まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月勉強会を行い、身体拘束をしない、身体拘束の考え方を考えるようなケアに取り組んでいる。	身体拘束の定義を掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。毎月の勉強会では事例検討を行い、身体拘束及び虐待防止に対する意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽になりそうな意見や内容は会議で話し合っ、どのように対応していけばいいかを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、知識を深めることで全職員の意識を向上している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には繰り返し確認し、理解、納得して頂いてから次の説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お便りや電話、あるいは職員に意見や要望があればいつでも気軽に話せるような環境作りを心掛けている。	家族会を開催し、家族からの意見や要望をうける機会を設けているが、現在は中止のため、電話や手紙などで要望などがきけるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見や提案がないかその都度聞いている。	職員会議では職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。年2回の個人面談のほか、個別にも都度意見などを聞き、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意な部分を強く発揮できるように場所や配置を意識している。向上心ややりがいを育てるよう環境整備や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際にケアを見て、研修や勉強会の内容を決めている。外部の研修はコロナウイルス対策で出来ていないが落ち着き次第積極的に参加していきたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な通話や会議を行い、勉強会に職員が参加しやすいように日程の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場合によっては傾聴し、職員間で情報を共有し話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様がどこを重要視しているのかを聞いたり、話の中で感じて、困っていること、不安なことを取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どの部分の支援が必要なのかを話し合っ て、サービス反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに尊重し、受け入れることで共にあり、生きていることを大事にしながら接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様との関係や仲の良さを大切にしながら距離感を正しくもって支えられるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所、物を大事にし、関係が途切れない様、電話等で話しあったりしている。	通常は家族の面会や知人、友人の面会をいつでも受け入れているが、現在は電話などのやり取りをすすめている。携帯電話の個人利用もある。外出は家族に対応をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席や場所を検討し、孤立せず利用者同士が関わりやすい環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も良い関係性を築きあげられるよう定期的に連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に話を伺う。会話が困難な場合やジェスチャーや文字などで聞く。	意思疎通が困難な利用者には日々の様子や表情から汲み取り、生活記録や月1回の居室担当報告を基にフロア会議にて、職員間で意向を確認し、支援に反映させている。家族には介護計画見直し時に電話で意向を確認している。	居室担当報告の記録やフロア会議の議事録が確認できなかった。利用者意向を確認をするまでの経緯が分かる書類の充実が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を尊重し、今後のサービスの経過や方針を決めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や過ごし方は情報を共有することで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナウイルス対策でご家族様には直接お話しできないため、電話等で意見を聞いている。意見や現状の様子を見て介護計画を立てている。	アセスメント、モニタリング、サービス担当者会議を実施し、6カ月毎に介護計画書の見直しを行っている。その内容は月1回のフロア会議での職員間での話し合いや家族の意見が反映されている。	コロナ禍において、家族との直接での面会は難しいものの家族と交流できる場を増やしていく工夫について検討されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく生活記録や日誌に記録し、情報を共有し、気になった内容を会議で話し合う事で見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の訴えや意見を取り入れ、ご本人様のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の能力が発揮され、安全かつ楽しい暮らしが出来るようになるにはどうすればよいかを常に話し合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	痛みや変化等の話があった際は必ず伝え、適切な医療を受けられるようにしている。	月1回、内科・歯科医師の訪問診療があり、毎週、訪問看護、歯科衛生士の訪問も実施され、日々の健康管理に取り組んでいる。また夜間は訪問看護師との連携を取っており、オンコール体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎回、細かな変化があり、その都度情報や気づきを申し送りに書き、内容を訪問看護の方に送る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者に情報を提供し、緊密に連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の在り方について話し合い、またADLが落ち、重度化する前にも話し合いを行い、方針を共有している。	入居時の説明にて重度化や終末期の方針を本人、家族に伝えて同意を得ている。状態の低下時には、その都度、医師との連携を取って家族への説明、話し合いをして、意向をくみ取りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議や勉強会でいざというときの対応を全職員に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、避難訓練や会議等で実践している。コロナウイルス対策で地域との合同訓練は出来ていないが伝言板を回すなどの情報共有を積極的に行っている。	年2回、定期的に避難訓練を実施し、災害時への対応に取り組んでいるが、今年度はコロナウイルス感染防止の為、避難訓練の実施はされていない。	コロナ禍においても、施設内だけの避難訓練など、工夫しての実施が望まれる。また、近隣の自治会などと交流を深め、災害時の協力体制の確保について検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは勿論、態度にも気を使っている。 1人1人違う言葉使いや対応をしている。	尊厳、プライバシー、接遇に関してはフロア会議にて職員間で話し合い、職員間での共有を図っているものの家族アンケートにて接遇に関する指摘があることから、全職員での周知にむけてきたいしたい。	各種マニュアル類や研修報告書の確認が出来なかったため、マニュアル整備や研修参加の機会を増やしていき、全職員での理解度を高めていく取り組みが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや自己決定ができるように声掛けをしたり、どのようにされたいかをお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の時間を大事にしてどう過ごしたいのか、ご希望があれば叶えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様で出来るならやって頂く。できない場合でもジェスチャーなどで意思疎通を図る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや食べ方などを意識し、一緒に食べることで共感や理解を深めている。食事の準備や片づけを一緒に行っている。	利用者が調理を行うことはないが、下膳や後片付け、食後のフロアのモップ掛けなど、食事に関わる手伝い出来るような取り組みを実施している。	利用者の食事の嗜好情報は、入居時のままであるため、数年入居している利用者に向けては、再度の嗜好調査が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認し、声掛けやおやつ提供の種類を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助によって口腔ケアを行って頂く。職員は必ず確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの時間やタイミングや声掛けの仕方により、その方が自立して行えるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、フロア会議やサービス担当者会議にて、職員間での話し合いを行い、トイレ誘導や声掛けのタイミングを決め、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量の意識と体操への促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に声掛けをし、希望にそって入浴を行っている。拒否がある場合は無理せず別の日にするなどの工夫を行っている。	入浴実施表を基にローテーションにて週2回程のペースで入浴を実施している。拒否など見られる場合には職員の変更、時間を置く、次の日にするなどの対応をしているが、個別に入浴しやすい時間帯を把握して支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさなどを調整して良く休まれるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や量を確認し、状態を常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様によって、雑誌やTVなどにお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス対策で外出が控えられている。ベランダや入口まで一緒に行くなどしている。	利用者の気分転換のために外気浴や近隣への散歩を実施していたが、コロナウイルス感染防止の為、ベランダや施設入口までの外気浴の実施となっている。	感染に注意しながらコロナ禍でも可能な外出方法の検討を期待する。また、家族アンケートでもコロナ終息後には外出を増やして欲しいと希望があるため、今後の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者様は立替金でしっかりと管理し、使用できるようお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があればお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レイアウトを季節に沿った内容にし、それぞれの場所に案内版を取り入れている。	利用者が集まる共有スペースのフロアには季節ごとの壁飾りや掲示板に利用者の写真などが飾り付けている。また、定期的な空気の入れ替え、冬場には加湿器の設置など環境整備にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居室など、一緒に過ごしたり、一人になれるよう居場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様がなじみのある洋服や道具を用意している。ご本人様自身でタンスの整理を行って頂くことでご本人様が使いやすく、過ごしやすくしている。	本人・家族の意向をきき、自宅で使用していた家具や仏壇などを設置することにより落ち着いた居室環境を作っている。また、希望があれば、自宅の部屋と似たベッド・家具の配置変更も可能な限り対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は衝撃を吸収する素材で出来ている。手すりがある。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	居室担当報告の記録やフロア会議の議事録の不備	毎月の記録・議事録の作成を行えるようにする。	記録や議事録の重要性を説明し、全職員が周知、理解した上で記録、議事録の作成を行う。	6ヶ月
2	26	コロナ禍においての面会や外出について 面会できない状態であるが、家族との交流が出来る場を広げるにはどうしたらいいか。	現状は面会できない状態であるが、面会できない分、ブログや電話、お便りなど積極的に発信していく。	職員の情報共有とブログの発信は全職員が理解し、日々の業務に取り入れるよう業務の見直しや書類の見直しを行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。